

**「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」
第4回研究運営委員会・統合DB整備戦略作業部会（合同会議） 議事要旨**

- 【日時】 平成19年3月19日（月） 10:00～12:00
【場所】 情報・システム研究機構 事務局会議室（秀和神谷町ビル2階）
【出席者】 堀田機構長、秋山委員、久原委員、高木委員、田畑委員、辻井委員、中村春木委員、増保委員、大久保委員、小原委員、黒田委員、菅原委員、高野委員、藤山委員
【陪席】
文部科学省 : 坂下課長補佐、石塚調査員
経済産業省 : 牧係長
内閣府 : 柴田主監補佐
（独）科学技術振興機構 : 橋本主任調査員
【事務局】 高野事務局長、河野総務課長、能住財務課長、笹島総務課課長補佐、加藤財務課課長補佐、丸山遺伝研管理部長

【議事】

（1）第3回研究運営委員会議事要旨の確認

堀田委員長から、2月1日に開催された第3回研究運営委員会・統合DB整備戦略作業部会（合同会議）の議事要旨（資料1）に関して、意見があれば会議の終了までに事務局まで連絡して欲しい旨の発言があった。特に意見はなく、議事要旨は承認された。

（2）統合DBセンター設置の報告

堀田委員長から、統合DBセンター設立の19年度予算が認められて、情報・システム研究機構のセンターとして4月に設立される予定であることが報告された。すでに情報・システム研究機構内で、統合DBセンター設立準備委員会が2回開催され、センター長候補として高木東京大学教授にお願いすることが決定していることが報告された。統合DBセンター設立後は、センターの運営会議と事業の運営会議を設置する予定であり、各委員にはご協力をお願いする旨の発言があった。

（3）DB統合周辺動向の報告

堀田委員長から、「本事業は、内閣府の科学技術連携施策群調査研究の中間報告を踏まえ実施しており、この調査研究の現段階の状況を調査研究の代表者である大久保教授から説明をお願いしたい。」旨の発言があり、大久保委員から、資料3を用いてDB統合周辺動向の報告があった。この報告についての質疑応答は、下記のとおりである。

- 出版社の権利や著作権の問題があるが、見通しとして、全文検索が可能な方向にいくものと考えていいのか。
→ その方向にいくものと考えている。全文検索だけではなくて、論文の中にある情報を取り出して再配置するようなもう一歩進んだことも考えていいのではないかと思う。
- 学術用語集のライセンスの問題はどうなっているのか。
→ ライセンスは学協会が保持しており、学協会の収入源になっているが、まだ公開することのメリットが十分説明できていないので、きちんと説明して理解してもらおうと考えている。
- 学術用語集について、新しい分野の用語はどうするのか
→ 新しいのは、新たに収集する。その際に用語集を参考にする。
- ライセンスの問題は、用語集についてはあまり問題がないと思うが、論文に関しては、あまり楽観できないかもしれない。しかし、オープンアクセスのメリットが社会的に認知されるようにすべきであり、認知されていけば、ライセンスの問題もゆるやかになっていくものと思われる。

（4）平成18年度成果について

- 1) 平成18年度成果物の説明
- 2) 平成18年度成果のデモ

大久保委員より、「資料4-1～資料4-4を用いて18年度成果について説明し、そのうちの一部をデモする予定であったが、評価用ベータサイト (<http://okubo2.genes.nig.ac.jp/>) の中に成果の大部分を載せることができたので、本サイトのデモを実施しながら説明することにする」との発言があり、デモを実施しながらの18年度成果についての説明が実施された。これらの説明についての質疑応答は、下記のとおりである。

- 微生物が扱われていないようである。アメリカではタイプストレイン（基準株）を300ほどやっています、有用微生物に注目しつつある。微生物は重要なので、古典的分類情報も含めてやってほしい。
→19年度予算がとおれば、ご意見を反映させながら実施する予定である。
- 計算機屋の立場からすると、システムがどの程度一般的にできているのかが気になる。システムの一部を取り出して使いたい場合が出てくると思う。そのようなことは、どの程度できているのか。
→部品として使えるようにするのは、当然向かうべき方向である。その実現の方法としては技術の進展、ディファクトになるものを見極めてやっていきたい。現在の成果もモジュール性をよくしてダウンロード可能にしている。
- 18年度の成果はすばらしい。これらは、プロトタイプなのか、実際にその方向に進める予定なのか。範囲が幅広いので項目によってニュアンスが異なるのでは。18年度成果は、どのぐらいの割合が19年度以降もこのまま突き進めていくのか、どのぐらいの割合がプロトタイプとして方向だけを検討しているのか。
→19年度以降の中核機関が決定すればそこで方針を決定することになるが、全部そのまま伸ばししていきえるように考えてやっている。これから外部の方の評価をいただいた上で、力の加減を決めてやっていく予定。18年度の成果は19年度の中核にひきついでやってもらう。
- オントロジーは、ほかの国でも体系をつくっている。それらとの互換性や相互運用性を考えると、協調してやっていかないといけない部分とそうでない部分を切り分けてやる必要がある。そうしないと全てをかかえることになる。
→巨大なものではなく小さく作っていきこうと思う。日本のユーザーがあてにするようなものを作っていきたい。
- 資料4-3の4ページの、ドライ系メソッドオントロジーの項目に「JST/BIRDとの連携」が抜けているので、記載してもらいたい。
→了解した。
- 「キュレーション支援システムの開発」で、ScrapPartyとあるが、これは、既存のweb-scrapと比べてどう違うのか？
→そのままデータベースになるところが決定的に違う。いったん集めた後、データベース化前に編集ができるところが特徴である。
- 多型知識表現技術開発のところで、PMLを採用していただいて感謝する。今後連携ができるといい。
- すごい情報量でよくやられたと思う。ポータルに関して、「全部を網羅」という言い方は不正確になる。また、DBの並び方が不適切。例えば、個人で作っているDBとPDBjが隣同士で並んでいる。わかりにくさが解消していない。
→そういうところはまさにこれからの課題である。今年は、できるだけ集めるところから出発している。今後それらの十分な説明をつける必要があり、時間と根気が必要な仕事である。もっと強弱をつけるようにやりたいと思う。
- 学会要旨の検索は、学会毎に行うのか。
→人名や施設名の統一ができれば一括して検索できるようにする予定。分子生物学会の要旨に関しては、著作権上、現在は運営委員会のメンバーのみへの開示で一般にはクローズドである。要旨を公開することのデメリットのみが、学会にはみえているようなので、まず作成してこのように使えるメリットを示して説得していきたい。
- 情報の公開には相当抵抗があるのではないか。
→学術の振興と情報の流通という学協会の目的に照らして、学協会を説得していきたい。
- いくつかの学会は要旨を公開しているので、そういうところから実績を示して考えを変えさせる

ことができるかもしれない。

- 学会の誰が責任を持って判断できるのかがよくわからない点が問題である。
- この問題は、ある程度形を作って、そのメリットを示して、そういうことをオールジャパンでやろうという運動を仕掛ける必要がある。そう楽観的ではないが、それをやるのが統合データベースの重要な課題であると思うので、単に利用可能なデータを統合するだけではない
- 学会要旨の色々な利用がされるようになると、要旨を書く側もよりまじめに書くようになる可能性がある。

以上の議論を踏まえた上で、平成18年度成果の内容について了承された。

3) 平成18年度成果の評価方法について

大久保委員より、平成18年度成果の評価方法について、資料4-5を用いて説明があった。この説明、及び説明についての質疑応答は、下記のとおりである。

(大久保委員による説明) ; 年度内の評価が必要になったので、評価用ベータサイトを用いた評価方法を考えた。現在、内閣府調査に協力いただいた方々を中心に約80名に評価サイトを閲覧いただき、評価をいただこうと考えている。ランダムに選んだ方々も対象にすることを考えており、ランダムサンプリングの実現の仕方を検討中である。評価者の追加案があれば送っていただきたい。

(質疑応答)

- 先日のシンポジウムの聴衆はこのリストと重なっているのか。
→必ずしも重なっていない。
- 迅速さが必要なのであれば、学会のメーリングリストを利用してはどうか。学会そのものがメーリングリストを持っている場合が多いので、広報担当に投げるとアナウンスしてくれるのでは。統合DBの宣伝にもなる。
- 匿名性の程度が問題である。匿名性が強すぎると、無責任な意見が増加する可能性がある。
→評価方法自体が確立していないので、その方法自身をこれから考える必要がある。今年度は暫定的な方法として、このような方法で行う。

以上の議論を踏まえた上で、平成18年度成果の評価方法について了承された。

4) 平成18年度成果報告書の目次案について

高木委員より、平成18年度成果報告書の目次案について、資料4-6を用いて説明があり、平成18年度成果報告書の目次案について了承された。

(5) その他

堀田機構長より、「こちらで用意した議題は以上である。」旨の発言があり、各委員から発言を求めたところ、坂下課長補佐より、「公開の了承を得ていない情報の公開については、注意するように」とのコメントがあった。堀田機構長より、「今年度の協力に感謝しており、全ての委員の先生は次年度以降も引き続き委員等をお願いしており、19年度以降引き続き協力をお願いしたい。」旨発言し、閉会が告げられた。

以上